

(別紙 12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	介護老人保健施設 うらら
実習期間	平成 30年 2月 19日 ～ 平成 30年 2月 23日
学生氏名	白畑 碧惟
実習プログラム	「月曜日」オリエンテーション、部署運営と地域を知る など 「火曜日」通所リハビリテーションで介護体験、利用者の方と交流 など 「水曜日」あじさい棟での介護体験、判定会議の傍聴 など 「木曜日」グループホームほなみで介護体験、椿棟で介護体験 など 「金曜日」パワーリハビリマシンの効果と説明、 グループホームほなみで介護体験 など
学び・気づき (300字程度)	介護現場に直接自分自身に関わることで、社会福祉士に必要な相談援助に関わる技術を学びつつ苦労や大変さを知ることができた。利用者の方と接する時に、不快な思いをさせないようにするために目線や姿勢と言葉遣いに気を付けることで家庭復帰を目指す利用者自身のモチベーションの向上や心のケアに繋がると分かった。相手のことを思い考えることで自然と介護の質が上がり、疑問や不思議に思ったことがあった時は周囲にいる職員に相談や助言を得ることで情報の共有に繋がり、事故の防止や感染のリスクを下げることができると考えられた。
今後に向けた 抱負 (200字程度)	今回の、実習を通して私は社会に対する関心や興味があまりなかったのだと気づかされた。実習期間中では、オリンピックが話題になっていたが私自身は関心がなかった競技も多くあった。そのため、利用者の方と競技について話す上で話の内容についていけなかったことがあった。少しでも多くのお話ができるように情報番組や新聞をみて社会に対するアンテナをしっかりと立てていきたいと思った。
インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)	介護職員の方々が利用者と接するときは、常に笑顔で交流していることが分かった。日常会話をリハビリ体操やトレーニングに取り入れることで、利用者の方の健康状態を確認しつつ目標に向かってのモチベーションを上げることができると思った。自立支援を経て家庭復帰後も地域とつながりを持てるように介護老人保健施設うらら様では、積極的に地域行事や学校行事に参加しているのだとインターンシップを通して実感することができた。
写真 (1～3点)	